



【札幌高級鋳物株 会社概要】

- ・創業・設立—1949年4月8日、1953年8月14日
- ・所在地 —札幌市西区発寒13条12丁目2番1号
- ・資本金 —8,000万円
- ・従業員数—59名(2018.4.1現在)
- ・営業品目—ステンレス鋼鋳鋼品、耐熱鋼鋳鋼品、耐摩耗鋼鋳鋼
- ・生産能力—月産100t

今回の会員企業トップインタビューは、「北海道の工業開発に役立つ優れた鋳物を提供しよう」との先代の想いを受け継ぎ、北海道から世界に発信できる鋳物工場を目指している札幌高級鋳物株式会社 代表取締役 奥田社長に伺いました。同社は、創業以来、常にお客様の立場に立って「品質の高い製品を提供する」という一貫した姿勢で取り組み、お客さまからの信頼を獲得し、社会の発展に貢献しています。

Q. 御社の沿革をお聞かせください。

A. 北海道庁の技師であった初代社長の奥田 泰が「北海道の工業開発に役立つ優れた鋳物を提供しよう」と決意し、昭和24年(1949年)菊水北町にて創業しました。昭和39年(1964年)現在地に工場を移転新設。1970年に特殊鋼専門工場を増設し、高周波誘導炉(500kg)を設備、77年には発光分光分析装置を導入、87年には高周波誘導炉(1,000kg)を増設、93年には大型熱処理炉を設備し、96年に新製鋼工場を造り、2000年にISO9002-1994を、2002年にISO9001-2000を認証取得、2001年にVRH工場が完成し、2007年に新生産管理システムを導入しました。この間2003年に弟・達也(4代目社長)が病により亡くなり、高橋専務が代表に就任しました。その後私が2010年に弊社に入社し、2012年に6代社長に就任しました。

Q. 経営理念・経営方針をお聞かせください。

A. 経営理念は、社員としての心構えなど5項目を掲げていますが、来年70周年を迎えるにあたり、簡潔・明瞭なものに見直したいと考えていますので、ここでは詳細は割愛します。

Q. SKIASの起源・由来をお聞かせください。

A. 「Sapporo Kokyu Imono Alloy Steel」各種材質の総合ブランド名称として商標登録しました。

「SKIAS＝札幌高級鋳物株式会社の合金鋼」という意味ですが、「SKIAS」は古代ギリシャ語で「かげ(陰)」の意があり、市場において陰の存在ながら各種設備、装置の重要な部位に使用されている当社製品を象徴しています。陰は日向と「対」をなし、日向にある「もの」には、必ず陰があるということから、陰の部分から積極的な「ものづくり独自技術」の発信を目指しています。

Q. 2007年に新生産管理システムを導入されましたがどのようなものですか。

A. 2007年の導入以来、生産・受注などの管理システムとして現在まで機能していますが、新規受注に関わる要員管理や生産納期管理など担当部門以外でも情報の共有を図ることなどにより生産性の向上を目指すため、現在見直しを進めています。

Q. 高品質の製品を作り続けてこられた源泉はなんですか。

A. 一言でいえば社員が自分の仕事に誇りを持っているからだと思います。ただ、中小企業では自社以外の情報を得ることが難しく、自身の立ち位置の認識がなかったため、他社を見て自分達との違いに気づいてもらうために2年かけて現場の社員を対象とした視察を実施しました。自分流に変えてきた5Sなどにも他社を見ることで気づきが生まれ、現場も変わってきました。今後は、総務部などの事務職の視察先を選定していく予定で、業務や来客対応など実際に見て感じてもらう、合理的に物事を考え、メリットや何ができるかを個々人が考える習慣をつけさせたいと考えています。



SKIASロゴマーク

Q. 貴社の社風、個性、社員気質などお聞かせください。

A. 社員は皆まじめで仕事に一生懸命取り組んでいます。若手でもおかしなことはおかしいと言える社風です。

Q. 社員の採用状況や人材育成方針をお聞かせください。

A. 4年前より、高卒女子を毎年1名技術系で採用しています。今年は2名の高卒新卒を採用しました。そのうち1名は2年前のインターンシップに参加した学生です。インターンシップに参加した学生に応募してもらえる会社になるということが私たちの目標でした。製造業として女性が働ける職場環境を構築することで、同時に男性も負担を軽減させ仕事効率をあげることができると思います。休憩時間を必要とする現業部門としない非現業部門での労働時間を見直しました。結婚・出産後も継続して勤務しやすい仕組みと環境を作っています。世の中には男性と女性が半々なので、女性が得意な分野の仕事も数多くあると思っています。これからも男女ともに働きやすい環境づくりに努めていきたいと考えています。

今年アクセスサッポロで行われる EXPO にも出展します。また、見学やインターンシップは継続して受け入れていく考えで、学校の先生たちにも会社を理解してもらえるよう、機会を通じて積極的にPRしていく考えです。採用については、面接を重視し、一緒に働きたいと皆が納得できる学生を採用することにしています。そのことがメンタルも強く長く働いてもらえるキーワードだと思っています。

人材育成に関しては、生産性本部の階層別教育への派遣や資格取得のための研修などに派遣していく考えです。



札幌高級鋳物本社社屋



製造工程

Q. 社長にご就任された経過、就任後、特に印象に残る仕事・事柄は？

A. 私は32年間、自身では天職とまで思っていた仕事(日本航空)についていましたが、先代の高橋社長の年齢や体調のことから、経営には素人であるにもかかわらず私が引き受けることにしました。

印象に残る仕事としては、所属団体からの情報もあり、ものづくり補助金という制度を活用して第一工場の設備を更新したことがあげられます。また、新たな製品を作るということではなく、製造方法を見直したことで作業の合理性・効率性を高めるよう改善したことでしょうか。今後は第二工場の建て替え設備の更新を考えていきたいと思っています。

Q. 創業70周年を目前にした今のご心境は。

A. 来年創業70周年を迎えます。すでに生産管理システムの変更について検討を進めています。そのため今期から組織を改編しました。製造部から管理業務を独立させ製造管理部をつくり、工程管理と受注見積業務を付加した一元管理を行います。営業部での時間が有効に活用でき顧客訪問件数も増え、春の受注は順調に推移しています。経営方針・ブランディングも検討を進めています。いずれにしても社員全体で共有できるもの(こと)を計画したいと思っています。

Q. 貴社の今後の事業展開についてお聞かせください。

A. 今後の事業展開としては、当社の技術や品質が必要とされる製品を作っていくことに尽きると思っています。現在も8割の部品を道外に供給していますし、その部品が製品になって、海外に出ています。当社が直接海外で営業することは要員面からも現在は考えていません。

私は、社員がこの会社において良かった、自分の子供にこの仕事をさせたいと言える会社になりたいと思っています。